

応挙展は連日たくさんの来館者でにぎわっています。



開館前には多くのお客さんがお待ちかねです 3月17日(日)10時前

いよいよ前期の展示があと1週間を残すのみとなりました。前期にしか見られない作品には《楚蓮香図》《五羽鶴図》《芭蕉図襖》などがありますが、とりわけ国宝《雪松図屏風》はこの機会にぜひとも見ておきたい作品です。

山下裕二先生がカタログにも書いていますが、江戸絵画で国宝に指定されている作品は数えるほどしかありません。しかも若冲も蕭白も芦雪も国宝指定は1点もないそうです。そんな数少ない国宝に指定されている江戸絵画のひとつが応挙の《雪松図屏風》なのです。



国宝《雪松図屏風》展示風景

特に今回の展示では、遠くから屏風全体を眺められることも好評です。また、展示ケースの下側からも弱い照明をあてていることにより、画面下方にちりばめられた金砂子（きんすなご）が輝き、作品全体が幻想的といえるほどの神々しい美しさを放っています。展示作業の最後にこの屏風の照明を点けた時、私（tm）は涙が出ました。

《雪松図屏風》を見られるのはあと1週間（24日[日]まで）です。まだご覧いただいていない方はお早めに起こし下さい。

(hf/tm)